

SF・ファンタジー世界の表現が当たり前前に存在する生活空間を作る

会社名 株式会社パリティ・イノベーションズ
 所在地 京都府相楽郡精華町光台3-5 NICTビル
 従業員 9名
 資本金 3,000万円
 売上高 —
 業 種 空中映像結合光学素子の製造・販売



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- ・ 事業化戦略、知財戦略を策定しアクションプランを明確にする。
- ・ 関係先との契約を適正に結び管理する。職務発明規程の整備、営業秘密管理規程の制定を含む知財管理体制を構築する。
- ・ 販売等で海外展開の準備ができる。

支援を受けてできるようになったこと

After

- ・ コア事業モデル、コア技術、事業方針、アクションプランが明確となった。
- ・ 本期間中に特許出願、商標出願を国内外で実施した。
- ・ 職務発明規程を作成し運用開始。営業秘密管理規程も整備した。
- ・ 社長を中心に社内経験者、外部弁護士などで知財体制を構築した。

今後の事業展開の展望

Future

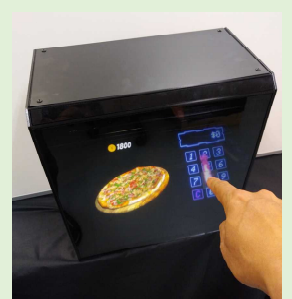
- ・ 市場は拡大しつつあり、大きな成長が見込める。
- ・ 量産技術のブラッシュアップ、用途・販路の開拓と拡大、基本特許網の強化とライセンス活用の検討、取引先との契約管理、について継続して取組む。

重点支援を受けた事業や商材

【パリティミラー®】



- ・ 置くだけで空中映像を浮かび上がらせる新しい光学素子「パリティミラー®」を世界で初めて開発することに成功。
- ・ 空中映像の応用・普及を促すとともに、今までにない画期的なディスプレイツールとしてパリティミラー®を用いた応用システムを開発している。



出典：パリティ・イノベーションズ ホームページ
<https://www.piq.co.jp/>

重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業化戦略の検討	・開発ロードマップ、売上目論見書が作成されているが、高採算の事業ステージへ移行するには具体的な戦略とアクションプランの検討が必要。
知財戦略の検討	・「パリティミラー」の開発技術の保護と応用を有利に進めるには、出願と秘匿について、および特許の有利な活用について、戦略的に検討する必要があった。
連携先等関係先との契約	・他社との製造技術開発、機器開発等では知財契約が非常に重要だが、知財・法務面での検討が必ずしも十分でなかった。
知財管理体制構築支援	・ノウハウ管理、知財管理の体制作りがまだ途上だった。
海外展開に関する支援	・海外企業と交渉中であるなど、海外展開を計画しているが、海外事業に対応するには準備が遅れていた。

重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業化戦略の検討	・コアの事業モデル、コア技術、事業方針、アクションプランが明確となった。	知財経営専門家 デザイン専門家
知財戦略の検討	・本期間中にも特許出願、商標出願を国内外で実施した。 ・自社出願と独占的实施権の取得などで強力特許網を形成できた。	知財経営専門家 弁理士
連携先等関係先との契約	・大手等との契約の基本方針が定まり、契約に進むとともに、契約書に関する認識が向上した。	知財戦略EX
知財管理体制構築支援	・職務発明規程を作成し運用を開始。営業秘密管理規程も整備が進んだ。 ・社長を中心として知財経験者、外部弁護士などで知財体制が構築された。	知財戦略EX 知財経営専門家
海外展開に関する支援	・海外にも特許網を形成した。パートナーとの連携が進んだ。	知財経営専門家 デザイン専門家

支援チーム紹介

リーダー専門家:知財経営専門家 須齋 嵩

活用専門家:知財経営専門家、デザイン専門家、弁理士、知財戦略EX

知財総合支援窓口担当者:大阪府知財総合支援窓口 大野 健造

PO(プログラムオフィサー):中 隆廣